

## 故本會理事工學博士野呂景義君の小傳

本邦製鐵界の泰斗、日本鐵鋼協會の創立者、元本會々長、故從六位工學博士理學士野呂景義君は大正十二年九月八日溘然として逝去せられたり。

君は本邦製鐵界に身を處き深遠なる學識と精邁なる技能を以て公私の別なく斯業を指導扶掖するに熱誠摯實、奮勵努力以て本邦製鐵業をして遂に今日の隆盛に到らしめ現時斯界の重鎮として名聲海内に赫々たり。

先考伊三郎氏は舊名古屋藩の重臣にして君は其次男安政元年九月藩地に生る幼にして英邁學を好み殊に深く英學を修む明治十年藩より選拔せられて東京に遊び開成學校豫科に入り刻苦精勵學業大に進み同十五年東京大學を卒業して理學士の學位を授けられ直に大學助教授を命ぜられ同十八年採鑛冶金學研究の爲め歐洲留學の途に上り在歐中悟る所あり專心製鐵の學を研鑽し孜孜懈らず又英獨兩國の著名工場に就き自ら職工と伍して苦心慘憺實務を練習する事數年遂に其蘊奧を極め同二十二年歸朝して再び大學に教鞭を執らる同二十四年工學博士の學位を得同二十九年に至る迄銳意其職に従事せられたり。

明治二十四年の候より君は公爵松方正義子爵榎本武揚等と共に本邦に於ける軍器の獨立を計らんが爲め頻りに官立製鐵所設立の必要を唱導せられ同二十五年六月農商務省に於て製鐵事業調査會設立せらるゝに方り君は其主腦の一員たり。

同調査會に於ては原料の調査、鐵鋼製造の試験、製鐵所官制の立案及び豫算等を調査せるが之等は概ね君が主として其任に當れり斯くして三年後諸調査完結の上本邦の原料を以て兵器用並に一般の需要に應すべき鐵鋼材を製造し得べき事明白となりたるを以て愈製鐵所を設置することに決定せり。

當時君は屢其筋の委囑に據り議會に提出すべき製鐵所設立案を作製し且つ議會に於て其説明の任に當れり同案は不幸數回に亘りて否決の運命を蒙りたるも遂に第九回帝國議會に於て其協賛を経同二十九年三月製鐵所官制の制定を見るに至れり君の八幡製鐵所創立に方り貢獻せられたる功績は甚だ偉大なるものと云ふべし。

其間君が畫策計營の苦心の跡を探ぬべき話柄を擧ぐれば當時松方公は製鐵事業に熱中せられ君が曾て新潟縣に於て鐵鑛の調査中同公は其踏査地に立寄られ旅宿を共にして君の調査の結果を聽取せられ喜悅の餘り左の一首を詠せらる。

野呂博士當地點檢の上鐵鑛各所に發見せし道今此宿に來りて其報告を聞き悦びに堪えず

國のため常におもひし鐵の山

かすくありときくそうれしき

正義

同二十八年秋季君は釜石鑛山に出張して製品の試験をなせり此試験中、製鐵事業に最も熱心なりし時の農相榎本武揚子は現場に臨み親しく其経過を視察せられたり。

此試験結果は農商務省内に陳列せられしを以て世人は初めて各鐵鋼製品が本邦産の材料を用ひ邦人の手に依て製造し得べき事を了知するに至れり。

同三十二年八幡製鐵所の囑託を以て再び歐米各國を巡歴し況く斯界の狀勢を視察せられたり。

是より先き田中長兵衛氏の懇請に應じ釜石鑛山の經營に參與し同鑛山の爲めに斡旋盡力せられ今日の盛況に達せしむ同三十一年北海道炭礦鐵道株式會社に聘せられて顧問技師となれり。

君は會て日本製鐵株式會社創立中心者となり又仙人製鐵所の顧問技師として皆多大の功績を擧げられたり。

明治三十七年初夏八幡製鐵所に於ける第一期の製鐵作業不結果に陥りたる時君は聘せられて顧問技師となり畫策其當を得大に其成績を擧ぐることを得たり爾來多年同所の技術を指導開發する所多し。

斯くて君は同所及び釜石鑛山其他各所に於ける製鐵業の爲めに挺身奮勵し斯業の發達を期するの外亦他意なく現時本邦に於て幾多製鐵所の建設を見たるもの孰れも技術上又は經營上、陰に陽に君の助言畫策に待たざるもの無しと云ふも敢て過言に非ざるべし。

晩年君の事業中特筆すべきは日本鐵鋼協會の創立なりとす本會は大正四年三月主として君の盡力に依りて成立せるものなり君は推されて第一期の會長となり任期滿了後は引續き理事となりて本會の爲めに専心努力せられたり本會の今日あるは全く君の力に依るものなり。

又君は永く日本鑛業會の理事或は評議員となり本邦鑛業の發達に貢獻せられたるのみならず近時農商務省工業品規格統一調査會委員となり是が第一部副長として盡瘁せられ弘く本邦工業の進歩改良に努力せられたる處大なりとす。

君の如きは眞に本邦製鐵史上に於て斯界の元勳として永く後世に範を垂るべきの士と謂ふべし。

君は昨年三月肺炎に罹り爾來病瘵に在りて療養中なりしが今回の大震災に方り本會類焼の報に接するや失望落膽せらるゝこと甚しく爾後病狀頓に革り終に九月八日午後十時長逝せられたり享年七十歳。

今や本邦製鐵界益多事ならんとする時に方り此人亡し痛悼禁する能はず嗚呼悲哉。